

西東京市役所 FSプログラム サマー子ども教室

プログラム概要	3つの小学校での子供たちのレクリエーション活動の支援
実習先	保谷第一小学校、本町小学校、向台小学校
実習先情報	西東京市内に設置されている市立の小学校
参加人数	5名
学部学科	幼児教育学科、教育学科、社会福祉学科
実習期間	令和6年8月5日～8月28日
本学担当教員	水越俊行先生

○はじめに

今回のサマー子ども教室では第一週目に保谷第一小学校、第二週目に本町小学校、第三週目に向台小学校に夏休みの居場所づくりを目的とし実習を行った。

サマー子ども教室では1クール約20人ほどの小学生と水引や光の宝箱などの工作に加え、企業のもと行う出前講座など、私たちはその指導や補助をメインとして活動し最終日には実際に自分たちで水引と光の宝箱の指導を行う。

○実習内容

11日間で3つの小学校に伺い、児童館職員の方や地域の方、企業の方と協力して児童と工作などを行う。

保谷第一小学校

第1クール 第2クール (8月5日 8月6日)

- ・企業出前事業 新川電機(株) CDごま

新川電機の方の講義の後、おもりをつけないCDと中央におもりを乗せたCDと端におもりを乗せたCDの3種類のCDごまを作り、どれが1番長く回るのかを実験する。最後におもりがついてないCDにシールを貼ったり絵を書いたりしてオリジナルCDを作り、みんなで対決する。

- ・工作「水引のチャーム」「光の宝箱」

水引のチャームは、3本の水引を使って、あわじ結びから梅結びを作り、最後にチャームをつける。

光の宝箱作成は、牛乳パックとトレーシングペーパーで箱を作り、その中にアルミホイルでまるやハートなどの形を作り、中を敷き詰め、カラーテープで蓋をする。最後に周りに折り紙を貼る。

第3クール 第4クール (8月7日 8月8日)

- ・企業出前事業 キューピーマヨネーズ教室

キューピーマヨネーズの方の講義(マヨネーズについて、マヨネーズができるまで)の後、マヨネーズを実際につくる。最後に工場で作ったマヨネーズと手づくりマヨネーズをきゅうりにつけて食べ比べをする。

- ・工作「水引のチャーム」「光の宝箱」

第1、第2クールと同内容

本町小学校

第1クール 第2クール (8月20日 8月21日)

- ・ 工作「水引のチャーム」「光の宝箱」

前回の小学校と同様に作成

- ・ 企業出前事業 日本製紙連合会 + 工作

日本製紙連合会の方の講義(紙がどうやってつくられているか)の後、紙を破いた切り口や水に入れて溶けた紙をループで観察。紙のルービックキューブを作る。

第3クール 第4クール (8月22日 8月23日)

- ・ 工作「水引のチャーム」「光の宝箱」

前回の小学校と同様に作成

- ・ 企業出前事業 東罐興業(株) 紙コップ工作

紙コップの歴史や紙コップができるまでの過程について授業を受け、その後でジャイロ作成を行う。みんなで体育館に行き自分の作ったジャイロを飛ばしてみようとする。

向台小学校

第1クール 第3クール (8月26日 8月27日)

- ・ 企業出前事業 エクラアニマル トレース体験

エクラアニマル作成のアニメーションを見たり、光るトレース台を使って絵を透かしその上から絵をなぞるトレース体験を行った。

第2クール 第4クール (8月27日 8月28日)

- ・ 工作「水引のチャーム」「光の宝箱」

前回の小学校と同様に作成、第4クールでは私たち学生がそれぞれの役割に分かれて児童に進行、指導を行った。

○提案したこと、発信したこと、など

8月28日の全体指導の時に子どもたちの状況を考えて、やりやすさを工夫して提案しました。また、子どもたちが話を集中して聞けるように材料を配る方法を変えたりしました。

○経験したこと、学んだこと、など

この活動に参加した5人のほとんどが、子どもたちとの関わり方に慣れていなかったり、あまり関わる機会がなかったりと不慣れな人が多かったですが、徐々に子どもとの自分らしい関わり方や対応力が身に付き、積極的な声掛けができるようになりました。

この活動を通して、一人ひとりが多くの子供たちと関わることで貴重な経験になりました。また、子どもたちと関わる点で第三者の目線を気にするということが大事になることを学びました。

○今後の展開、今後の学び、など

今後の展開としては、幼児教育学科では1日研修が9月に、社会福祉学科と教育学科ではそれぞれ3、4年時に介護施設や児童保護施設、教育実習が催される予定です。今回のFSサマー子ども教室で学ぶことができた子どもとかかわるコツをその機会を活かしていきたいと考えます。また、将来それぞれが介護士や保育士、教員など人とかかわる仕事に就いていく中で今回の活動を通して得ることができた学びを糧にしていこうと思います。

○まとめ

私たちは今回、「子供全員と仲良くなる」「積極的に話しかける」「教員を目指す大学生としての自覚を持つ」などそれぞれが事前に目標を掲げて研修に取り組みました。戸惑うことも多々ありましたが各自が自分にできることを精一杯やり遂げ、お互いに意見を交換することによって自分の目標を達成し、意外な視点からの気づきを得ることによって理想像に近づくことができました。子供に無理に好かれようとしなくてもこちら側から壁を作らなければ大丈夫だという学びや第三者の視線を気にしなくてはならないことなどの気づきは一生大切にしていきたいと思います。このような貴重な機会を設けていただいたことに感謝するとともに小学生と楽しい思い出を作ることができて良かったと思います。

○担当教員コメント

実際に子ども達と接する中で学んだことが多くあったと思います。特に活動する中で、「楽しみつつも、引率者・指導者としての姿勢を忘れないこと」の大切さを学んだようです。

各自の目標にも書かれている「積極的に子どもたちに話しかけ仲良くなる」は、「子供との距離を縮め仲良くなる」ためにはとても良い方法です。自己評価を見ると、「子供たちと仲良く活動すること」は出来ていたと考える学生がほとんどです。しかし「子供との距離感をどうもつか」「子供一人一人の様子をしっかりと把握すること。そして、その子に適した声掛けをする難しさ」等に難しさを感じる学生が多くいました。今回の経験をぜひ、今後に生かしてほしいと思います。

加えて、子供たちと一緒に活動する際には、「安心・安全の確保」が重要です。今回は、担当の方が配慮してくれていましたが、自分たちが指導する立場になった時には、第一に考えてほしいと思います。